

【様式 02】 高大連携公開講座シラバス

* 科目 No.	19205
----------	-------

1. 開設大学	広島女学院大学 国際教養学部	開講場所 (キャンパス・施設)	本学
2. 科目名	「今、日本文学は何ができるのか—〈想像力〉と〈希望〉—」		
	学問分野	番 号	名 称
3. 担当教員	柚木靖史 植西浩一 足立直子 ○佐藤茂樹 (国際教養学部国際教養学科)		
4. 開講期間 (曜日) 開講時間	平成 29 年 8 月 10 日 (木) 10 時 00 分 ~ 14 時 50 分 (50 分×4 回)		
個別開講日	1 回目 8/10	2 回目 /	3 回目 /
	7 回目 /	8 回目 /	9 回目 /
5. 募集定員	20 人		
6. 科目内容・ 授業計画	<p>「アフリカの飢えた子供たちを前に、文学は何ができるのか」これはフランスの著名な哲学者サルトルの言葉です。このことを考えるヒントは、「想像力」と「希望」にあると、私たちは考えます。言葉によって勇気づけられることもあります、傷つけられることもあります。人をも自分をも生かす言葉に敏感になりましょう。4つの講座を通して、文学作品を読み味わう際の、「想像力」と「希望」の大切さを確認して下さい。</p> <p>1. 『伊勢物語』(第6段)を読む。(10:00~10:50) 在原業平は、かねてより心を寄せていた女性を盗む。夜になり、業平は追っ手に奪い返されないため、一晩中戸口に立って見張る。朝になってみると、女性はいない。鬼が食べたという。一体、この物語の鬼とは、何なのでしょう。また、業平にどんな希望があるのでしょうか。</p> <p>2. 日本文学と漢字—漢字表記にみる明治時代作家の「想像力」と「希望」— (11:00~11:50) 明治時代は、それぞれの作家が、漢字表記をどのようにするかということについて模索していた時期です。この時間では、明治時代の小説と現代小説を読み比べながら、読みやすく理解しやすい文章を書くために、日本人が漢字とどのように向き合ってきたかということについて考えます。</p> <p>3. 「吾輩」が語る世界—漱石と私たちの想像力— (13:00~13:50) 「吾輩は猫である。名前はまだない」—この有名な書き出しを手がかりに、語り手の視点から世界を「異化」し、これまで見えなかったもの・ことを可視化し、世界認識を変える文学の力について考えます。想像力を働かせ、異なる語り手の違った視点に立つことで、希望が見えてくるはずですよ。</p> <p>4. 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』における〈ほんとうのさいわい〉(14:00~14:50) 幸せとは何でしょう。日々の生活の中で、ふと考えることはありませんか。この授業では、『銀河鉄道の夜』を読むことを通して、ジョバンニとカムパネルラが探し求めた〈ほんとうのさいわい〉について考えます。</p>		
7. 受講料	無料		
8. 別途負担費用	(テキスト代・実習料等) ナシ		
9. 開講条件※1 あり・ない	① 最少開講人数 (人) 定員超過の不許可は選考により決定 ② 不許可・不開講通知日 (7月14日(金)以前の開講科目は3月末まで/7月15日(土)以降の開講科目は6月末まで)		
10. その他特記事項	受講者についての制限事項、事前に予習しておく資料・文献など特記すべきこと 昼食は持参のこと (学内購買・食堂は夏季休業です)		
11. 開設大学への 交通手段	http://www.enica.jp/ から開設大学のホームページにジャンプして確認してください。		

※申込時点で原則、受講できます。ただし、開講条件で不許可・不開講があった場合は受講申込者へ通知します。